

みんなで取り組むサル対策

大津市内の複数の地域でサル被害が増加しています。

大切に育てた野菜を食べたり、家の屋根に上ったりなど、様々なトラブルを起こしています。何もしないと、サルは人に慣れてどんどん好き放題するようになってしまいます。

サルの被害を減らすためには地域全体で対策に取り組まなければなりません。

■サルはどんな動物？

①生態

- ・雑食で果実や野菜、昆虫などを好む。肉や魚などは好んで食べることはない。
- ・エサを求めて群れで行動する。ある程度決まった独自の行動範囲の中で周期的に行動する。
- ・群れはメスとその子どもを中心に概ね十数頭で構成される。
- ・出産は通常2～3年に1頭のサイクルだが、畑の農作物を食べ栄養状態が良い場合、1～2年の頻度で産むようになる。野生での寿命は20年前後。

②特徴

- ・運動能力に優れ、木登り、ジャンプは非常に得意。
- ・視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間と変わらない。
- ・記憶力は抜群で一度味わった恐怖は忘れない。その出来事が起こった場所や状況もよく記憶している。
- ・新しいものや場所、状況はとても警戒するが、一旦慣れると大胆に行動する。
- ・一度人慣れが進んでしまうと追払いは困難になる。
- ・長距離を走るのは苦手で、安全な場所から離れるのを嫌がる。
- ・群れで行動しているので、数頭が柵を超えて中のエサを食べても他のサルが入れなければそのエサ場はあきらめる。

③被害作物

- ・主に果樹、野菜、水稻、大豆、イモ類が食害される。特に春と秋に被害が多い。
- ・群れで加害するので短期間でも被害が大きい。
- ・辛味や苦味の強い農作物は好まない。

人に慣れたことで、畑の作物を荒らすだけでなく、住宅の屋根に登って瓦をめくる、アンテナを倒す、人家に侵入するなどの被害を与えるようになった。



④ニホンザルのオス特有の動き

ニホンザルのオスは、4才から6才に達すると必ず生まれ育った群れを放れて、他の群れへ入るために旅をしますが、その旅の道すがら市街地へ迷い込むことがあります。

サルから生活を守る

■地域にサルを近づけない

- ・地域にサルがやってくることには理由があります。生ゴミや野菜クズ、収穫しない農作物や果樹、お墓のお供え物などもエサになります。また、地域が気に入ると長期間滞在します。エサを与えてくれる優しい人間や容易に手に入れられる食べ物があれば居着いてしまいます。みんなで協力して、サルのエサを減らしましょう。
 - ・サルは記憶力が良い動物です。一度人間が怖くないと覚えてしまうと、被害はひどくなります。花火、エアガン、スリングショット（パチンコ）などを使ってみんなで追い払いましょう。
- ※人間や里は怖いものだとよく学習させるためには、追払いを地域全体で協力して行っていくことがとても大切です。

■もしサルに出会ったら

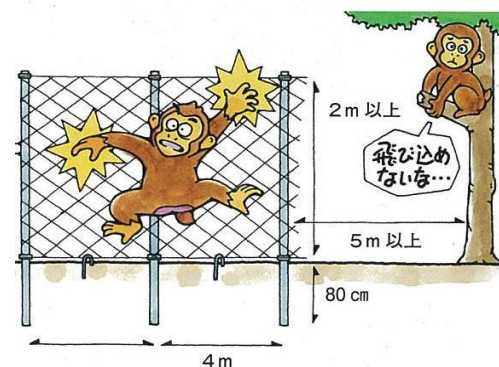
- ・サルの唯一の武器は歯なので、かまれないように注意してください。

追い払う道具がない場合や、サルが威嚇しながら向かってきて怖いと感じた場合は追い払いはやめておきましょう。また、サルと視線を合わせると威嚇されたと思い、人が視線をそらせたときに襲う場合があります。サルの目を見ないでください。そのままサルから見えないうちに離れましょう。

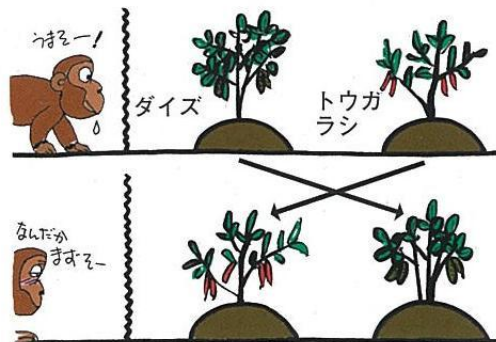
サルから農作物を守る

■サルの習性を考えた柵の設置

- ・サルは柵が樹木や建物の側にある場合、ジャンプして柵を飛び越える。飛び移られないように防護柵類は周囲の樹木、建物から5メートル以上離して設置する。
- ・サルが手を伸ばしても届かないよう、農作物は柵から離して植えつける。
- ・サルは柵をよじ登って侵入するので、電気柵は地面に足が着かなくてもショックを与えることができるもの（+極と-極がネット上にあるもの）が有効です。
- ・地面からアースを取るタイプの電気柵は（地に足が着いていないと）電気ショックによる効果がないので注意が必要です。



周囲の樹木から5m以上あけると飛び移れない



手前に嫌いなトウガラシを植えると近づかない